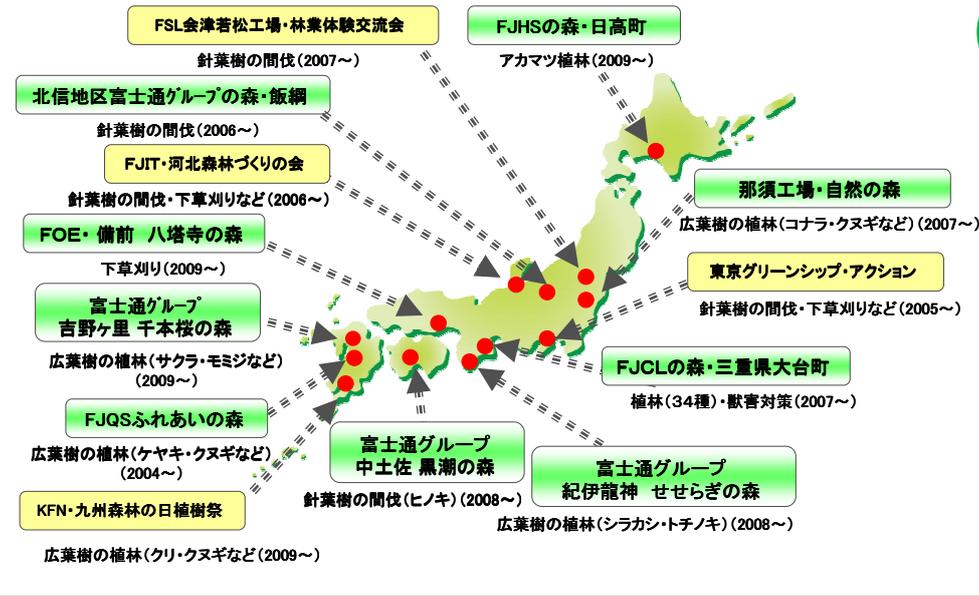


全国13箇所で森林保全活動(9箇所で「富士通グループの森」設置)



フォレスト サポーターズ



美しい森林づくり推進国民運動



森づくりの取組について話す環境本部の
 畠山義彦さん

全国9カ所で「富士通グループの森」を設置 地域との協働で森林づくりに取り組む

——富士通グループ

森をささえよう

森と暮らそう

富士通グループは、本年3月に大阪で開催された「生物多様性EXPO」に出展し、森林保全活動について紹介したことをきっかけに、「フォレスト・サポーターズ」のメンバーとなりました。

平成16年に熊本県阿蘇山麓に「FJQSふれあいの森」を設定し、広葉樹の植林を行なったことを皮切りに、現在、全国9カ所で「富士通グループの森」を設置して、森林保全活動を行なっています。地域と協働した森林づくりの取組について、環境本部環境企画統括部の畠山義彦さんにお話を聞きました。

富士通株式会社は、平成8年に認証取得したISO14000(環境マネジメントシステム)に関する国際規格に基づき、平成19年から各事業所で年間1件以上の環境社会貢献活動を実施することとしました。その結果森林保全に取り組むサイト(支社支店、グループ会社)も増え、現在、全国13カ所で森林保全活動が行われています。

そのうち9カ所が、地域社会との協定により森林保全や地域交流などを行なう「富士通グループの森」です。

平成19年10月に富士通(株)四国支社、(株)富士通四国システムズ、(株)富士通エフサス、(株)富士通四国インフォテックと高知県、高知県中土佐町の間で協定が結ばれた「富士通グループ・中土佐 黒潮の森」もその1つで、この森をフィールドに、地域社会と連携して、創意あふれる取組が行なわれてきました。

平成20年4月には、富士通グループのサイトEMS(環境マネジメントシステム)担当者を集めて、中土佐町で研修会が開催されました。研修では、黒潮の森でヒノキの間伐を体験するとともに、これを自分たちが実施する環境社会貢献活動に見立てて、野外イベント

🌳 黒潮の森の間伐材を利用した社内グッズ



入浴剤



コースター



カード立て



🌳 EMS推進担当者の研修会を開催、ヒノキの間伐を体験しました。



🌳 平成21年のEMS研修会は、生物多様性をテーマに土壌生物の観察(中土佐 黒潮の森)



🌳 チャレンジ25バッチ

平成19年10月
「富士通グループ・中土佐 黒潮の森」
での活動を開始



平成20年4月14日、除幕式が行なわれました。

フォレスト・サポーターズ
4つのアクション
活動紹介



🌳 平成20年4月「富士通グループ・紀州龍神 せせらぎの森」が始動、シラカシなどの苗を植樹しました。

今日からやろう! 森のための
4つのアクション



森にふれよう



木をつかおう

トの企画・運営ノウハウを学びました。また、社員の家族や、ユーザとその家族を対象とした間伐体験ツアーを開催し、森の作業で汗を流した後には温泉につかり、中土佐町の食材を使った料理を楽しみながら親睦を深めました。

一方、中土佐町の小中学校で環境教育にも取り組んでいます。「環境出前授業」として、富士通の社員が講師となり、環境を守るチームと壊すチームに分かれて戦うカードゲームで生徒たちと一緒に遊ぶなど、楽しみながら環境教育を行なっています。

続く平成21年には「企業と生物多様性をテーマに研修を行ないました。間伐された所とされていない所、ヒノキ林と落葉樹林の土壌生物を観察し、参加者は森林保全が生物多様性の保全とも深く関係していることを感じました。今後毎年、中土佐町でEMS研修会を開催し、参加者は研修での体験をサイトへ持ち帰り、森林保全を始めとする環境社会貢献活動に生かします。

こうした森との関わりを継続していくためには、間伐材の利用が欠かせません。そこで、富士通では、黒潮の森のヒノキ間伐材から入浴剤、コースター、メモスタンドなどの社内グッズを製作して活用を始めました。さらに今年作った間伐材製の「チャレンジ25バッチ」は、取引先にクルビズで訪問する時などにカジュアルな服装の理由を簡単に説明できると社員の間でも好評です。

今後は、中土佐町のような「富士通グループの森」の数をさらに増やしたいと思っています。また、森の大切さを生物多様性保全の観点からも社員1人ひとりが理解し、自発的に保全活動に取り組めるようにしていきたいと考えています。

